

生活相談所
加藤鉦一(宝徳)
Tel.0235-64-3941
携帯090-8929-4221
HPは「藤島 加藤鉦一」と検索で入力。

発行経費にカンパをお願いします。民報配布者にご連絡下さい(月177円程度)
10月 26人 30,565円
9月 47人 24,190円

ふじしま秋まつり つや姫の里の収穫祭

「日本料理わたなべ」(野田目)による500円のワンコインのランチや、市有機農業推進協議会(志藤正一会長)のお米食べ比べ、有機農業の体験もできます。

27回の「日本蕈文化大祭」では、わら馬や卵つとなど蕈細工づくりの体験もできます。

「日本料理わたなべ」(野田目)による500円のワンコインのランチや、市有機農業推進協議会(志藤正一会長)のお米食べ比べ、有機農業の体験もできます。

27回の「日本蕈文化大祭」では、わら馬や卵つとなど蕈細工づくりの体験もできます。

主なイベント

- *つるおか食の祭典2016
じもと名店の味 食の都内職師大使のおすそ分け 地産地消給食メニュー試食 有機米の食べくらべ 庄内農業高校、東洋大学の料理試食 おやつ作り体験コーナー
- *JA庄内だわ秋まつり
いも煮・つや姫おにぎりコーナー KOMÉKOカフェ 収穫感謝つるお大会 産売コーナー
- *第27回日本蕈文化大祭
蕈細工づくり体験 かかしコンテスト
- *つや姫誕生のまちPRコーナー
- *包丁研ぎコーナー

芸術文化祭 10月29日・31日
ふじしま音楽祭 11月5日

平成28年10月30日 午前10時～午後2時 鶴岡市藤島体育館
主催：ふじしま秋まつり実行委員会(庄内組合) TEL:0235-64-2229(ふじしま観光協会内)

板垣隆一 書道コレクション展

2日(水)まで



東田川文化記念館企画展示として「板垣隆一書道」コレクション展」が同明治ホールで26日(水)から11月2日(水)まで開かれています。

板垣氏が書道の手本として蒐集した明治以降の書家の作品、掛け軸や屏風など約30点が展示されています。

主な作品は、「明治の3筆」と言われる日下部鳴鶴、巖谷一六、中林梧竹の他に、黒崎研堂や松本芳翠など。江戸末期に活躍した市川米庵やめづりしい勸業詞の屏風(書家不明)も展示されています。

時間は午前9時から午後4時30分。月曜の31日は休館です。

私の昭和 46

鈴木重雄(89歳・八色木)

鈴木孝蔵氏組合長 就任



役場の兵事係として勤務。早期退職し、村長職を昭和29年合併まで就任された。

町村合併後は町会議員として活躍された方である。頭脳明晰、弁舌爽やかで先見性に優れた方であった。

村長改選により八色木の鈴木孝蔵さんが当選し、組合長兼務となつた(右・当時の写真)。

鈴木さんは庄内購買農業協同組合連合会(庄内購連)のちに庄内販連と合併し庄内経済連となる)の常務理事を務めている多忙な人であったので、常務理事を置き非常勤である(連合会設立課程はのちに掲載)。

ここで鈴木孝蔵さんにも触れてみたい。若いころ青雲の志を抱き東京都文京区役所に勤務したが、家の後継者のため、帰郷し村

また弟の与四郎さんは、東京外語大学を卒業し外務省入省。ポルトガル、ブラジル、アメリカ大使館に勤務し帰任。陸軍飛行兵幹部候補生として徴兵され昭和19年6月8日、重爆撃機整備中戦死。28歳であった(墓碑より)。末弟は共産党員であった。

発足当時の農協は事務的にも整わず、総会前日夜遅くまで組合長も一緒にガリ版印刷をしたこともあった。

村長として藤島町合併に熱心であった。

「食文化」の地域づくりが「田園回帰」の本に紹介

庄内地域の「食の都」づくりと、庄内浜のアバと庄内浜文化伝道師、「食文化創造都市」鶴岡の地域づくりが、農文協のシリーズ「田園回帰」第7巻で大きく紹介されています。

著者は、東京大学名誉教授、聖学院大学大

学院非常勤講師の佐藤一子さん。

佐藤さんは1970年代始めの農村青年による庄内労働大学(青山崇学長)の学習運動に参加し、最もよく庄内を知る学者の一人です。

本の中で食文化を発信する農村女性―庄司祐子さん、長南光さん、小野寺美佐子さんらを詳しく紹介。市職員のア部知弘さん(長沼)の言葉も登場します。



シリーズ田園回帰7(農文協2376円)

中仙道テクテク一人旅(その11) 別荘よりもビジネスホテルが似合う (新町 齋藤留治)

テクテク歩いて京都に向かう途中にある軽井沢の街、シヨッピングに興じる人々や白樺・カラマツの木々に囲まれた別荘と思われる建物を、ただチラチラ見ながら追分方面(名作

・「風立ちぬ」等を書いた堀辰雄などの文人が住んでいた町)に急いだので、テレビの水戸黄門に出てくるような昔風情の建物を軽井沢では見る事は無かった。テクテク旅を終えてから軽井沢には縁がないが、ある年の夏の日

に私の知り合いのMさんから電話をいただいた。電話では「今、軽井沢にある自分の別荘にいたので来ないか」というありがたーいお誘いであった。

Mさんとはオーストラリアのブリスベーンに滞在中に知り合ったある会社の会長さんだが、軽井沢に別荘を持つているくらいだから財布の中身は私とは月



とスッポン、たまーに東京に行く私に一杯飲み屋でご馳走してくれたり、夏になると高原野菜で有名な婦恋村のトウモロコシ等を送ってくれるので大切な知人でもある。電話を受けた時は「軽井沢に泊まれる、しかも別荘にー」とワクワク、約束した日に新幹線の軽井沢駅で下車、Mさんが駅前私に乗せてもらうにはエツと

思いうような車で待つていた。やはりブリスベーンで知り合ったもう一人の知人Bさんと一緒に別荘へ、途中には緑の絨毯のようなゴルフ場やテニスコート等が点在し、「有る所(人)には有る(金)もんだ」と納得。 「気遣い無用」と言われても貧乏神に愛さ

「日本国は、長い歴史と固有の文化」(自民改憲案前文冒頭)の意味は戦時中と同じ

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

憲法前文を全文改定した自民改憲案は「日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち、国民統合の象徴である天皇を戴(いただ)く国家」

で始まる。ここには2つの問題点がある。「固有の文化」と「天皇を戴く国家」である。後

者は次回に書き今回は前者について述べる。戦時中の1942(昭

和17)年、文学報国会が、ジャーナリズムの巨匠・徳富蘇峰を会長として設立され、会員には菊池寛・吉川英治・藤山愛一郎・横山大観・武者小路実篤・西條八十などといった錚錚(そうそう)たる人物がいる。戦争宣伝に協力し、欧米文化を超えて伝統的な固有の文化を回復し、戦争宣伝に協力するとして『愛国百人一首』『国民座右銘』などを発行した。『愛国百人一首』には「大



道端の草刈

♪お使いは 自転車で 気軽に行きまっしょい という歌がありました。が、俺の場合はこれがバイクだ。駐車場には困らないし、第一燃費がいいから毎年6kmを超えてる走りだ。

▲後期高齢者に近くなつたから、昔のように飛ばせない。だから後方から車が来るときは、邪魔にならないように路側帯を走るんだが、朝のラッシュ時はなかなかここから出られない状況だ。 ▲しかし今年、ここを走るとスキの穂が体にまとわりつくし、草履の足は痛いところ。皆さんもお気づきだと思いが、国道345号線藤島鶴岡間そばは草刈が行われず、この時期・背高泡立ち草の黄色が目立つ。歩道も草で一杯の状況だ。

▲この歩道、お年寄り君の御楯となりて捨つる身と思へば軽きわが命かな」など大君(天皇)礼賛が多く、『国民座右名』の元旦は「我が国は神国なり」であり、3月3日、雛の節句は「女はやわらかに心つつくしきなんよき」(女は従順がよい)である。

自民改憲案の「固有の文化」とは、天皇の存在、女性従順観などを指し、戦時中と同じもので憲法が厳しく否定したものである。 や高校生の何人かは自転車を利用してのことと自分の安全を考へてのことなのだが、これも草があつては、と思つてはいるだろう。 ▲ここは国道といつても、県か市の管理だろう。それはどっちでもいいんだが、どんな計画で仕事をしているんだい。もうこの時期だから今年はこのままなのではなからうか。 ▲毎年同じように納める物を納めていながら同じ待遇が受けられないで、我慢をしなければならないことに怒りを感じるのだぜ。担当部署から言い訳を聞くじゃないですか。 ▲国では同じように少ない年金から天引きをしながら、介護保険の利用が取り上げられる。こんなことは立派なサギでしょう。(石川)



NHKスペシャル「従軍作家たちの戦争」(13年8月14日)から。写真上・ペン部隊。右・日本文学報国会発会式